

文献 [2, 3] はこの分野で最も広く読まれている基礎文献であり，大学院に入学するまでに必読である^{*1}．特に平安時代の文化との関わり [3, p. 25]，英語と日本語の言語学的関連からの考察 [3, pp. 30–35] は興味深い．また，文献 [4] は新たな分野を拓いた最初の論文であり，当初の問題意識を知るうえで重要である．

参考文献

- [1] B. フー, Q. バズ, C. クー『foobar の誕生』 保毛太郎訳 (民明書房, 1995).
- [2] B. Foo, Q. Baz, and C. Quux, “The birth of foobar”, *Journal of Foobar* **255**, 19–454 (1990).
- [3] 保毛太郎「ほげと千年紀—foobar の視点から—」, 『ほげ学会論文誌』 **100**, 20–42 (2000).
- [4] 保毛太郎, 比世次郎, 布我三郎「ほげとぴよの意味論」, 『ほげ学会論文誌』 **101**, 53–58 (2001).

^{*1} [2] は長大な論文であり，和訳が単行本で出ている [1].